

応援部隊の活動拠点等

【危機管理室、消防局】

1 自衛隊の救援活動拠点

救援活動拠点
保土ヶ谷公園、三ツ沢公園、根岸森林公園、みなとみらい 21 耐震バース

- ※ 大規模震災災害派遣命令に基づく派遣における、師団規模の部隊の活動拠点は、三ツ沢公園、県立保土ヶ谷公園、根岸森林公園のいずれかとし、使用可能な広域応援活動拠点を前進拠点として活用する。
- ※ 海上自衛隊の広域応援活動拠点は、みなとみらい 21 耐震バース等の緊急物資輸送用耐震強化岸壁を基本とする。

2 緊急消防援助隊等の受入拠点

区分	受入拠点
陸上部隊	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新横浜公園 ・ 金沢自然公園駐車場 ・ こどもの国駐車場 ・ 横浜市消防訓練センター ・ その他、災害の状況に応じて指定
水上部隊	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鶴見消防署鶴見水上消防出張所周辺
航空隊	<ul style="list-style-type: none"> ・ 横浜ヘリポート ・ 横浜市消防訓練センター

- ※ 横浜ヘリポートを、全国各地からの応援消防防災航空隊のヘリベース（集結・指揮）とする。

3 広域応援活動拠点（公園 4、県立高校 22）

広域応援活動拠点		
三ツ沢公園（神奈川区）	根岸森林公園（中区）	県立保土ヶ谷公園（保土ヶ谷区）
新横浜公園（港北区）		
県立永谷高校（港南区）	県立横浜南陵高校（港南区）	県立光陵高校（保土ヶ谷区）
県立保土ヶ谷高校（保土ヶ谷区）	県立横浜旭陵高校（旭区）	県立二俣川看護福祉高校（旭区）
県立横浜氷取沢高校（磯子区）	県立新羽高校（港北区）	県立白山高校（緑区）
県立霧が丘高校（緑区）	県立田奈高校（青葉区）	県立市ヶ尾高校（青葉区）
県立元石川高校（青葉区）	県立荏田高校（都筑区）	県立新栄高校（都筑区）
県立川和高校（都筑区）	県立柏陽高校（栄区）	県立横浜栄高校（栄区）
県立松陽高校（泉区）	横浜修悠館高校（泉区）	県立横浜緑園高校（泉区）
県立瀬谷高校（瀬谷区）		

- ※ （ ）内は施設の所在区。必要に応じて周辺区の広域応援活動拠点とする。

- 4 広域防災拠点(旧上瀬谷通信施設地区)における災害時の運用を踏まえた公園施設の活用
横浜市地震防災戦略(令和7年3月)に位置づけた(仮称)旧上瀬谷通信施設公園の整備
では、その公園施設の設置にあたり、次のとおり災害時の活用を想定する。

役割	具体的な公園施設	公園施設の災害時の活用想定
ベースキャンプ 機能の運営	出入口・ゲート・ 門・さく等	・大型車両の走行
	園路	・大型車両の走行や駐車
	駐車場	・大型車両の走行や駐車 ・応援部隊の宿営や資機材の配置
	広場	・大型車両の走行や駐車 ・広域支援部隊の宿営や資機材の配置 ・日陰だなや休憩所の宿営活用 ・ベンチの簡易ベッド活用
	トイレ	・断水時にも使用可能な防災トイレ ・水源の確保
	運動施設	・大型車両の走行や駐車 ・応援部隊の宿営や資機材の配置 ・シャワーやトイレ等の水源の確保
ヘリ離着陸・駐 機機能の運営	広場	・大型輸送ヘリの離着陸 ・中型ヘリの離着陸、駐機
防災補助機能の 運営 (部隊の休憩や 打合せ場所、物 資の一時保管、 市災害対策本部 の代替等)	パークセンター1 パークセンター2	・会議室や作業場等を、広域支援部隊の休憩、打合せ 場所、市災害対策本部の代替施設等に活用 ・アトリウム等を、物資拠点を補助する屋内空間(物 資拠点補助施設)に活用 ・太陽光パネル電源による照明等の活用 ・シャワーやトイレ等の水源の確保
広域避難場所の 運営	出入口・ゲート・ 門・さく等	・避難者の通行 ・公園植栽の防火樹林活用
	水源施設	・水源の確保
	広場・キャンプ場	・延焼の遮断や輻射熱からの距離を確保し安全に避 難できる場所としての活用